

中学校区におけるめざす子ども像  
自分で目標を持ち、思いやりを行動に移して、豊かな人間関係がとれる子。本校がめざす生徒像「一に挨拶、二に笑顔、三四に夢と希望、五に元気」

堺市立美木多中学校  
校長 西谷 洋

令和7年度 重点目標  
・授業改善の推進 ・規範意識の高揚 ・安全管理、危機管理体制の確立 ・学校群の取組を生かした「総合的な学力の育成」 ・特別支援教育の充実

確かな学びの現状  
授業や行事は協力して真面目に取り組む生徒が多く、その結果「学校が楽しい」生徒や、「自ら進んで学ぼうとする」生徒は8割を超えている。また、全体的には落ち着いた学習環境も維持できているものの、一部に衝動的な行動に及ぶなどの課題を抱える生徒もいる。そのため、集団として学びに向かう力を育てていく。  
総合学力プロフィールでは、3つの資質・能力についてほぼ堺市の平均となっている。1年前の同一集団と比較すると、特に知識・技能における上昇が著しい。  
令和5年度以降、生徒用個人端末をどの授業でも活用する研修を重ね、令和7年度は端末が更新された。生徒の体験活動の範囲を少しでも広げていきたい。

豊かな心・健やかな体の現状  
豊かな心の醸成は、道徳の時間を要として、人と人との協働して生きていくために必要な心を育むことが大切だと考える。そのためにも教科書による道徳の時間を充実させ、豊かな心の育成に努める。また平和教育、異文化理解、人権教育を柱に、本校の特色である飼育・緑化活動など多岐にわたる体験を通じて生徒へ働き掛けていく。「いじめや暴力を見て見ぬふりをしない」生徒は多いが、依然としていじめ・暴力根絶には至っていない。そのため、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。  
体育授業に対する取組は、3学年とも前向きである。生涯にわたって、運動に親しむ土壌作りの一環として、小学校からの流れを大切に、敏捷性・持久力・筋力の向上をめざしたトレーニングを計画的に実施していく。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし) 総合=総合学力プロフィール 全国=全国学力学習状況調査 ○数字=校内アンケート	評価方法	評価時期	進捗確認 (~12月)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	授業改善	・静謐な学習環境を保持する ・言語活動を効果的に取り入れ、各教科等における深い学びの場を設定し充実させる。 ・信頼性の高い評価の実施	授業を大切に静謐な教育環境を維持する。堺版授業スタンダードを基にした授業改善で、基礎学力の向上を図る。	総合C2生徒⑥「学校のルールを守っている」生徒の割合が96%以上	総合学力プロフィール 生徒アンケート	年度末	-	○	・12月教師アンケートで100% ・わかりやすい授業に肯定的な保護者については57.0%、生徒は87.7%だった。	○	・生徒が成長してきた様子をうかがうことができる。 ・自治会加入率の低下など地域とのつながりが希薄化している、学校とのつながりも低下しているのではないかと。	
			わかりやすい授業に努め、評価の仕方をしっかり伝え、妥当で信頼性のある評価を行う。	⑩「子どもは、わかりやすく教えてくれる先生が多い」と言っているとする保護者が78%以上	保護者アンケート	年度末	-	△				
	個に応じた教育	・習熟度別少人数授業の充実 ・生徒一人一台パソコンの活用推進 ・インクルーシブ教育構築にめけて、特別支援教育を推進発展させる	数学・英語での少人数習熟度別指導を効果的に行う。	2年3年生生徒アンケートで少人数授業が役に立ったかを問う	生徒アンケート	年度末	-	○	・習熟度少人数授業については、昨年度は生徒指導で一部困難な時期もあったものの、本年度はおおむね実施でき、達成できたものと認められる。	○	・教員の確保や待遇改善を国レベルで検討する必要がある。 ・今年度タブレットが更新されたが、ICT機器への予算の確保が課題だと考えられる。	
			●GIGA端末等ICT機器を授業内で効果的に活用し、授業方法の改善工夫を行い、学力向上を図る。	生徒⑫保護者⑨のICT活用アンケートが80%以上	生徒・保護者アンケート	年度末	-	○	・三校合同研修のほか、支援学級三校交流会等を実施した。	○	・支援が必要な生徒に粘り強く対応し、相応の成果を挙げた。	
豊かな心・健やかな体	豊かな心・人間性	・授業、行事、部活動を通して、自己肯定感を高め、達成感を味わう ・将来の夢や目標に向かって「やる気」スイッチを入れる ・道徳や人権に関する授業の充実を図り、他者理解に努め、自分も他者も大切に育てる子どもの育成を図る ・課題を抱える生徒の現状と課題について改善の手立てを講じ、支援を充実する ・いじめの未然防止に向けた組織的な取組を推進する	★生徒が自分には良いところがあると感じているか。小中一貫教育を推進し、日々の教育活動を通して自尊感情を高め、他者を理解する気持ちや、助け合い、協力の精神を醸成できているか	生徒⑨C4全国(7)「自分には良いところがある」と答える生徒が80%以上	全国学調 総合学力プロフィール 生徒アンケート	年度末	○	・全国学調「自分には良いところがある」と答えた生徒が94.5%。「先生があなたの良いところを認めている」と答えた生徒が95%。 ・全国学調「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と答えた生徒が95.1% ・アンケートで「いじめや暴力を見て見ぬふりをしない」と回答した生徒は82.0% ・羊のスカイの旅立ちをテーマに心の教育を実施した。	○	・先生が自分のことを認めてくれたので学校が好きになった。生徒とのつながりを一層大切にしてほしい。 ・自己肯定感が学年が上がるに従って向上していくことが望ましい。 ・行事等で自分の役割を意識して取り組んでいる子どもが多い。 ・不登校やいじめを受けた生徒及びその保護者へのケアが大切であり、学校を卒業した後のことを視野に入れた取組が大切である。		
			●夢や目標を持ち、粘り強く取り組んでいるか	全国(9)③「生徒が夢を持ち目標を立てられるような指導を心掛ける」教職員が100%	全国学調 教職員アンケート	年度末	△					
			★生徒指導委員会を毎月開催し、情報共有の上、チーム学校として対応する。 ★全国学調での「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の肯定的回答が95%以上 ★心の教育(人権教育、道徳)における授業の見取り	・学調(13)「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の回答 ・⑪「いじめや暴力は見て見ぬふりをしない」との回答が82%以上 ・授業の見取り	生徒アンケート 見取り	年度末	○					
健やかな体	健やかな体	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を継続していける意識の醸成を図る	・健康や保健体育への興味関心を高めることができたか	総合B1「外で体を動かすことが好きか」への肯定的回答が80%以上	総合学力プロフィール	年度末	○	・酷暑対策のため体育大会を5月とし、プール授業を9月中旬まで実施した。	○	・自然豊かな地域環境を背景に、運動に親しむことのできる環境が整っているものと認められる。	○	・子どもたちの安全を確保しつつ、人生の思い出になる体験をさせてほしい。
			●緑化・飼育活動を全員が体験し、生命のはかなさ、大切さを実感することで美木多中の個性のある教育活動を実践 ●小中連携活動について保護者理解は得られているか	・生徒⑫保護者⑨の「緑化・飼育活動」への肯定的回答が生徒保護者とも95%以上 ・保護者⑭「小中連携」への保護者の肯定的回答90%以上	生徒アンケート 保護者アンケート	年度末	△	・「緑化・飼育活動」への肯定的回答が、生徒が94.5%、保護者が98.5% ・「小中連携」への保護者の肯定的回答が85.9%	△	・飼育、緑化活動を総合の時間と定め、評価を行っている。 ・農園が小学校との連携や支援教育の学びの場として機能している。	○	・今後、飼育・緑化活動の持続的な取組ができる方策が必要である。 ・PTA活動の枠にとらわれず地域社会と学校の連携も重要である。

校長より(年度末)  
本プランの判断基準について、より客観性を持たせるため、4月全国学力・学習状況調査(対象は3年生)と9月堺市児童生徒学習・生活状況調査(全学年対象)及び12月実施の校内アンケート調査(全学年生徒・保護者・教職員)の結果を基に達成状況の自己評価を行った。特に12月の校内アンケートについて見ると、生徒は22項目中18項目が前年度を上回ったものの、保護者は新項目を除く19項目中16項目が前年度を下回った。特に、保護者アンケートで特に目立って低下した項目は、ICTの活用(▲22.8パーセント)、授業を分かりやすく教えてくれる先生(▲17.6%)であった。生徒のアンケートでは、それぞれ低下していないので、より保護者に対して学校教育に対する理解が必要と感じられた。

学校関係者評価者から(年度末)  
・学校協議会を通じて、不登校生徒の増加や教員の過剰な時間外勤務といった学校の困り感のほか、現在必要とされる課題についての現状を認識していただき、より理解を深めることができた。現在の学校が抱える働き方改革の推進に伴う部活動の在り方、弾力的な授業の進め方等について、地域の課題を踏まえつつ、どうすれば学校がより良くなるのか、学校に期待されるものは何かについての貴重な提言を頂戴した。